コンテナ苗生産の現状と海外の事例



有限会社 大坂林業 代表取締役 松村幹了

話の流れ

- ヨーロッパの事例(オーストリア、スウェーデン)
- スウェーデンの苗畑 (動画)
- 生産の現状 (何)大坂林業)
- コンテナ苗への期待



オーストリア:大規模



オーストリア:中規模



オーストリア:小規模



スウェーデン:大規模;S社

- 林産品や紙製品の上場企業のグループ
- 70%を国有林へ出荷
- 全国6か所の圃場で1.3億本生産(国内需要の33%を賄う)
- 訪問圃場 7 haで2600万本を生産
- 現場作業員8人、事務員3人、季節4人



スウェーデン:大規模 S社





スウェーデン:大規模 S社



スウェーデン:大規模 S社





スウェーデン:大規模 H社

動画で紹介

コンテナ苗生産量の推移(예大坂林業)

生産本数	育種区	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
アカエゾ		5,000	5,000	5,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
トドマツ	東部	5,000	10,000	20,000	30,000	30,000	50,000	80,000	80,000
	中部		10,000	20,000	30,000	30,000	30,000	20,000	10,000
	西南部					10,000	20,000	20,000	30,000
カラマツ			500		13,500	110,000	100,000	150,000	440,000
合 計		10,000	25,500	45,000	83,500	185,000	210,000	280,000	570,000

シンプルなルールに基づく生産(侑)大坂林業)

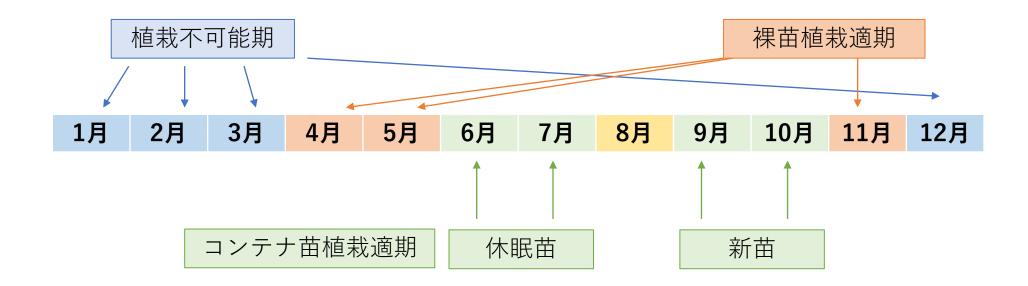
- カラマツ類は150 c c で1年間養成
- トドマツ、アカエゾは300 c c で2年間養成
- ・培土は全苗連推奨の購入培土
- ・春出荷は休眠苗を使用
- ・出荷は段ボール利用



コンテナ苗生産スケジュール(예大坂林業)



コンテナ苗植栽暦 (カラマツ類)



どの段階でどの技術を入れるか?

- ますます高まる需要
- 深刻化する人手不足
- ・苗木代の低減への期待

SAKA NURBERY 50万本 600万本

→省力化がカギ





機械化、省力化の事例

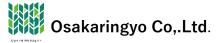
- ・培土充填・植穴開けを機械 化
 - →約8倍のスピードに
- ・機械化で植穴を大きく
 - →移植スピードが2倍に

→50万本生産も可能に

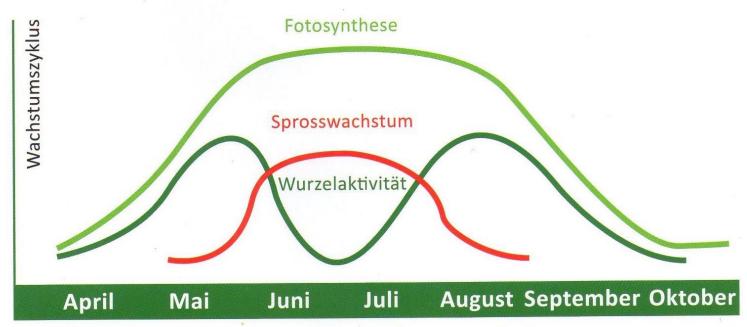




上:培土充填機 左:植穴開け機



樹種特性はつかめているのか?



Zeitraum der Wurzelaktivität bei Ihrer Aufforstung nützen.

LIECO社カタログより



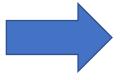
コンテナ苗生産について(清水邦夫氏)「むすびに」より 我が国におけるコンテナ苗生産については、その生産技術 も含め暗中模索の段階にあるように思われる。~中略~期 待が強いだけで、技術が確立されないまま、苗木生産者を 含め関係者が右往左往しているのではないか。まずは、優 良な苗木を安定して生産できる手法(培地、灌水、肥料 等)を確立する必要があるのではないか。

森林遺伝育種 第2巻 (2013) p 2 7



林業の中で種苗業は・・・

ボトルネック



扇の要

制約条件理論

1番弱い部分

最も大切な部分

様々な主体が集まって話し合う場が必要

